

# 平成二十九年 青年教学3級・初級試験 練習問題

「教学入門A」

「1」法華経

## ① 諸法実相と久遠実成

後ろの「語群I」から正しい語句を選び

び( )の中に書きなさい。

(1) 日蓮大聖人は「諸法実相抄」で次のように仰せです。「下<sup>しも</sup>地獄より上<sup>かみ</sup>仏界までの(①)の依<sup>えし</sup>正<sup>しょう</sup>の当体・悉<sup>ことごと</sup>く一法ものこさず(②)のすがたなり」

(2) 前の御文を通解した時に、次の各部分はそれぞれ「諸法」と「実相」のどちらに当たりますか。

● 地獄界から仏界までの十界の衆生とその環境世界・・(③)

● すべて妙法蓮華経の現われである・・(④)

(3) 諸法実相が説かれたことによつて、(同①)の衆生そのものが、本質的にすべて(同②)

(4) 実相として平等であることが示され、どのような境涯にあつても成仏が原理的に可能となりました。

(4) 方便品では、「衆生に仏<sup>ぶつ</sup>知<sup>ち</sup>見<sup>けん</sup>を開かせ、示し、悟らせ、仏<sup>ぶつ</sup>知<sup>ち</sup>見<sup>けん</sup>を得る道に入らせる(開<sup>かい</sup>示<sup>じ</sup>悟<sup>ご</sup>入<sup>にゅう</sup>)」ことが仏たちが世の中に出現する根本の目的であると説かれます。この仏が出現する根本目的のことを(⑤)

( )と言います。

(5) 同じく方便品には「我が如く等しくして異なること無」と説かれ、自身と等しい仏の境涯に到達させることこそ、仏たちの根本の願いであり仏法

の根本目的なのです。この法華経の経文を5文字で(⑥)と言います。

(6) 法華経本門の中心的な法理は(⑦)であり、如来寿量品第十六の中で説かれます。

(7) これによって、釈尊が今世で初めて成仏したというこれまでの考え方である(⑧)を打ち破り、釈尊は実は(⑨)という、はるか久遠の昔に成仏して以来、この娑婆<sup>しやば</sup>世界に常<sup>じょうじゅう</sup>住<sup>じゅう</sup>する仏であることが明かされます。

(8) 久遠実成の釈尊は、これからも菩薩としての寿命が永続しているの、本当は入滅することはないのだが、一旦は入滅した様<sup>ようそう</sup>相<sup>そう</sup>を方便として示します。このことを(⑩)と言います。

(9) 入滅してもなお永遠の仏は、九界の凡夫たちが住む娑婆<sup>しやば</sup>世界に常<sup>じょうじゅう</sup>住<sup>じゅう</sup>しており、人々が一心に仏を求めて身を惜しまず仏道に励むなら、いつでも姿を示すと説きます。このように娑婆<sup>しやば</sup>世界こそ仏の住む常<sup>じょうじゅう</sup>寂<sup>じやく</sup>光<sup>こう</sup>土<sup>ど</sup>に他ならないと明かしたことを(⑪)と言います。

「語群I」

- |         |         |
|---------|---------|
| A 五百塵点劫 | B 諸法    |
| C 実相    | D 方便現涅槃 |
| E 久遠実成  | F 十界    |
| G 妙法蓮華経 | H 如我等無異 |
| I 出世の本懐 | J 始成正覚  |
| K 娑婆即寂光 |         |

② 地涌の菩薩

後ろの「語群Ⅱ」から正しい語句を選び( )の中に書きなさい。

- (1) ( ) (1) ( ) とは、(2) ( ) 品第十五で、釈尊が滅後の悪世の弘通を託すために呼び出した無数の菩薩をいいます。
- (2) ( ) この地涌の菩薩は、(3) ( ) ( ) (4) ( ) ( ) (5) ( ) ( ) (6) ( ) という四人の導師に率いられています。
- (3) ( ) 如来神力品第二十一において、上行菩薩らは、釈尊から滅後の弘教を(7) ( ) ( ) されます。
- 大聖人は、地涌の菩薩が出現する時は、滅後の中でも(8) ( ) ( ) であり、弘める大法とは南無妙法蓮華經にほかならないことを明かされます。
- この付嘱の通り、末法の初めに出現し、南無妙法蓮華經を不惜身命で弘通された(9) ( ) ( ) 御自身こそ地涌の菩薩、なかんずく(10) ( ) ( ) 菩薩に当たります。
- (4) ( ) 「諸法実相抄」に「いかにも今度・信心をいたして(11) ( ) ( ) にてとをり、日蓮が一門となりとをし給うべし、日蓮と(12) ( ) ( ) ならば地涌の菩薩たらんか、地涌の菩薩にさだまりなば釈尊久遠の弟子たる事に疑はんや」(一三六〇頁)と仰せのように、大聖人の御精神の通り、広布の実践に励む私たち一人一人も、すべて(13) ( ) ( ) であり、末法の御本仏・日蓮大聖人の本物の弟子なのです。

③ 不軽菩薩

後ろの「語群Ⅱ」から正しい語句を選び( )の中に書きなさい。

- (1) ( ) (1) ( ) は「二十四文字の内容は次の通りです。「我れは深く汝<sup>なんじら</sup>等を敬い、敢<sup>あえ</sup>て(3) ( ) ( ) せず。所以<sup>ゆえん</sup>は何<sup>いか</sup>ん、汝<sup>ま</sup>等は皆<sup>み</sup>な(4) ( ) ( ) の道を行じて、当<sup>まさ</sup>に(5) ( ) ( ) することを得<sup>う</sup>べし」
- (3) ( ) 大聖人は、「人の振る舞い」について、次のように仰せです。
- 「一代の肝心<sup>かんじん</sup>は法華經・法華經の(6) ( ) ( ) の肝心は(7) ( ) ( ) 品にて候なり、(8) ( ) 菩薩の人を敬いしは、いかなる事ぞ教主釈尊の出世の本<sup>ほん</sup>懐<sup>かい</sup>は(9) ( ) ( ) にて候けるぞ、穴賢・穴賢、賢きを(10) ( ) ( ) と云いはかなきを畜<sup>たく</sup>といふ」(一一七四頁)

「語群Ⅱ」	
A 淨行菩薩	B 従地涌出
C 作仏	D 付嘱
E 法華經の行者	F 人
G 無辺行菩薩	H 地涌の菩薩
I 同意	J 地涌の菩薩
K 上行	L 修行
M 不軽菩薩	N 安立行菩薩
O 上行菩薩	P 日蓮大聖人
Q 悪世末法	R 不軽
S 法華經	T 不軽
U 輕慢	V 菩薩
W 人の振舞	

## 「2」日蓮大聖人と法華經

### ①末法の法華經の行者

後ろの「語群Ⅲ」から正しい語句を選び( )の中に書きなさい。

(1) 日蓮大聖人は、法華經の經文通りに実践し、大難を越えて妙法を弘通した御自身のことを、「(1)

( )と仰せになっています。

(2) (2) ( ) 品第十には、「如来の現に在す(2) 猶お(3) ( )多し。況んや(4) ( )の後をや」と説かれています。法華經を説く時には

積尊がいる時代にあつても、なお怨嫉(反発・敵対)が多い。まして(5) ( )の時代となれば、積尊の時代

以上の怨嫉がある、という意味です。この經文通りの激しい怨嫉の難を受けたのは日蓮大聖人だけです。

法師品第十に説かれるこの經文八文字を書きなさい。

經文(1)

(3) (6) ( ) 品第十一では、

(7) ( ) を説いて、滅後に法華經を受持し、弘めることが困難であることを強調します。なぜ法華經を弘めることが難しいのかといえば、現実の上で迫害、反発などの「(8) ( )」が起こるからです。このように説いて、至難中の至難事である滅後惡世の法華經弘通を勧める仏意を強く示しているのです。

(4) (9) ( ) 品第十三には、惡世末法の時代に法華經を弘める者には三種類の強烈な迫害者、すなわち(10) ( ) が出現することが示されています。

(5) 次のそれぞれは三類の強敵のうちどれに当たりますか。( ) にその名称を書きなさい。

■法華經の行者を迫害する出家者・・・( )

■表面的には、人々から聖者のように尊敬を集めているが、本心は、自分の利益のみを貪り、悪心を抱いて、讒言により権力者を動かして、法華經の行者を弾圧させる・・・( )

■法華經の行者を迫害する、仏法に無知な衆生・・・( )

(6) 大聖人の時代に、僭聖増上慢にあてはまるのは誰ですか。名前を書きなさい。

名前(1)

(7) 大聖人は、(11) ( ) 流罪と

(12) ( ) 流罪の二度にわたる流刑を受けることで、勸持品に説かれる、「何度も、所を追われること」という意味の經文を身で読んだことになりました。この經文五文字を書きなさい。

經文(1)

(8) 日蓮大聖人は、まさしく、經文に説かれた通り、(13) ( ) による大難にあわれました。末法における大聖人の御出現とそのお振る舞いを予言した經典が(14) ( ) なのです。逆に、大聖人が、(同14) ( ) を身をもって読まれた(身読)ことよって、(同14) ( ) が虚妄にならずにすみ、積尊の言葉が真実であることを証明したことになるのです。

「語群Ⅲ」	
A 六難九易	B 法師
C 滅後	D 怨嫉
E 三類の強敵	F 滅度
G 見宝塔	H 伊豆
I 難	J 法華經
K 勸持	L 佐渡
M 三類の強敵	N 法華經の行者

## ② 上行菩薩

後ろの「語群Ⅳ」から正しい語句を選び

び( )の中に書きなさい。

(1) 日蓮大聖人が、ただ一人立ち上がり、末法の法華經の行者として、命を懸けて妙法の弘通に励まれたことは、大聖人が釈尊から末法弘通の(1) ( )を受けた(2) ( )に当たることと証明しています。(同②)

( )は釈尊滅後に釈尊に代わって人々を成仏へと教え導く「(3) ( )」です。

(2) 法華經如来神力品第21には、上行に率<sup>ひき</sup>いられた地涌の菩薩が、現実世界で人々の闇を照らす(4) ( )であると言われます(≡日)。

また従地涌出品第15では、世間という泥の中にあつて、清らかな覚りの華を開き実をならせる(5) ( )であると説かれます。(≡連)

これら上行菩薩のはたらきを發揮された日蓮大聖人は、自ら「(6) ( )」と名乗られて、法華經の行者として民衆救済の行動を貫かれました。

(3) 日蓮大聖人は、外面の姿やはたらきである(7) ( )においては、釈尊から付囑を受けた、地涌の菩薩の上首である(8) ( )です。これに対して、大聖人の内心の覚りの境涯

である(9) ( )においては、(10) ( )です。

私たちが南無妙法蓮華經の(11) ( )を信じて自身の内なる妙法を開き顕すことは、自身に(12) ( )の仏の生命境涯を現すことなのです。

「語群Ⅳ」	
A 内証 <sup>ないししょう</sup>	B 御本尊
C 末法の教主	D 蓮華
E 太陽・月	F 久遠元初
G 上行菩薩	H 外用 <sup>げゆう</sup>
I 付属	J 久遠元初の自受用報身如来 <sup>じじゅゆうほうしんによらい</sup>
K 上行菩薩	L 日蓮

## 「3」一念三千

### ① 一念と三千

後ろの「語群Ⅴ」から正しい語句を選び

び( )の中に書きなさい。

(1) 日蓮大聖人が、末法の万人成仏のために南無妙法蓮華經の御本尊を顕された理論的支柱<sup>しちゆう</sup>の一つとして、

(1) ( )の法理があります。この(同前①) ( )は、中国の(2) ( )が摩訶止観<sup>まかしかん</sup>の中で説いたものです。

(2) 次の上の文や語句に当てはまるのは、それぞれ「一念」か「三千」か、正しいものを【 】に書きなさい。

- ・ 諸法すなわち、すべてのものごと、あらゆる現象・はたらき【 】
- ・ 私たち一人一人の瞬間瞬間の生命のこと【 】

(3) 次の文の4つの「」には、「一念」または「三千」が入ります。適する方を選んで、それぞれの「」に書きなさい。

「」 「に」 「の諸法が具そなわり、」 「が」 「の諸法に遍あまねく広がることを説いたのが一念三千の法理です。

(4) 自身の一念が変われば自身を取り巻く(3) も変わり、ついには(4) ( )をも変えていけるといふ希望と変革の原理が一念三千の法理です。この一念三千を現代的に表現したものが、池田先生が記された小説『人間革命』の次の主題です。

「一人の人間における偉大な(5) ( )は、やがて(6) ( )の転換をも成し遂げ、さらに(7) ( )の転換をも可能にする」

## ② 一念三千の構成

後ろの「語群V」から正しい語句を選び( )の中に書きなさい。

(1) 日蓮大聖人は(8) ( )抄で、一念三千について天台大師の『摩訶止観』を引用されて仰せになります。

わずかでも私たちの「一念の心」があるとところ、「(9) ( )種の世間」が具わるといふことが示されています。「世間」とは、(10) ( )という意味です。「(同前9) ( )種の世間」とは、さまざまに違った様相を示すあらゆるものと、「(同前9) ( )の諸法」です。

(2) 「三千」とは、(11) ( )と十如是、そして三世間を合わせて総合したものです。数式で表すと次のようになります。

百界×(12) ( )×三世間∥三千十界と十如是と(13) ( )という、それぞれ異なった角度から生命とその因果の法則をとらえた法理を総合し、私たちの生命と世界の全体感を示したものが一念三千です。

(3) (14) ( )が一念三千の中核の原理となることを、大聖人は次のように仰せです。

一念三千は(同前14) ( )よりことはじまれり

(4) 十界は、地獄界・(15) ( )・畜生界・(16) ( )・人界・(17) ( )・声聞界・(18) ( )・菩薩界・(19) ( )の10種類の生命の境界のことです。

(5) 十界はそれぞれの生命に固定された境界であり、ある界から他の界に移るのは、死後、来世で生まれる時であるとのそれまでの考え方を、根本的に打ち破ったのが法華経です。この法華経に説かれる、十界のおのの生命に十界が具わっていることを(20) ( )といえます。

(6) (同前20) ( )は、今、十界のいずれか一界の姿を現している生命も、(21) ( )に応じて、次に他の界の境界を現す可能性があることになります。十界のどのような衆生も正しい(同前21) ( )に依じて(22) ( )界を現し、成仏できるのです。

(7) 地獄界であれ仏界であれ、十界のどのような衆生・環境も等しく(23) ( )を具えています。(同前23) ( )

( )は、生命境界の因果の法則を示したものであり、法華経(24) ( )品第(25) ( )に記されています。

(8) 次の説明文はそれぞれ十如是のどれか。適するものを語群Vから選んで( )に記入しなさい。

a 内在していて、結果を生み出す直接的原因。(26) ( )

b 外から「因」にはたらきかけ、結果へと導く補助的原因。(27) ( )

c 因に縁が結合(和合)して内面に生じた目に見えない結果です。(28) ( )

d 内在している力、潜在的能力。(29) ( )

e 内在している力が外界に現れ、他にも働きかける作用です。(30) ( )

f 「果」が時や縁に応じて外に現れ出した報い。(31) ( )

g 最初の「相」(本)から最後の「報」(末)までの九つの如是(によぜ)が一貫性を保(たも)っていること。(32) ( )

h 表面に現れて絶え間なく移り変わる形、様相。(33) ( )

i 内にあって一貫している性質・性分。(34) ( )

j 「相」と「性」を具えた主体。(35) ( )

(9) 次の説明文はそれぞれ五陰(ごおん)世間・衆生世間・国土世間の内のどれか。「 」に書きなさい。

◆ 衆生の生命境涯に十界の差別があること。「 」

◆ 衆生の十界の生命境涯の違いに依じて、その衆生が住する国土・環境にも十界の違いがあること。「 」

◆ 衆生の生命を構成する、色陰・受陰・想陰・行陰・識陰の5つの要素に、十界の違いがあること。「 」

(10)

「世間」とは(36) ( )のこと  
で、十界それぞれの違いは、五陰・衆生・国土の三つの次元に現れます。

(11)

あらゆる衆生は、仮に五陰が集まって成立したものであって、常に変化しており、固定的な実体はないとされます。このことを(37) ( )と言います。

(12) 次の説明文は、色陰・受陰・想陰・行陰・識陰の内どれに当たるか、「 」に書きなさい。

■ 想い浮かべたものを行為へと結びつけるはたらきで、意思や欲求などの様々な心の作用。「 」

■ 知覚器官である六根(眼根・耳根・鼻根・舌根・身根・意根)を通して外界を受け入れる知覚のはたらき。「 」

■ 認識・識別するはたらき。「 」

■ 生命体を構成する物質的側面。「 」

■ それぞれの知覚器官から受け入れたものを、心に想い浮かべるはたらき。「 」

(13)

三世間の法理からは、(38) ( )  
が変われば(39) ( )も国土も変わることが分かります。心のあり方で、自身と(40) ( )のすべてが変わるのです。

(14)

一念三千の法門によって、生命と世界を貫く(41) ( )の法則が総合的に把握され、すべての衆生が等しく(42) ( )できることが明らかにされたのです。

「語群V」	
A 如是縁	B 如是相
C 如是報	D 如是体
E 如是本末究竟等	
F 如是力	G 如是性
H 如是作	I 如是因
J 如是果	K 五陰
L 十如是	M 環境
N 差異・違い	O 十界互具
P 全人類の宿命	Q 一国の宿命
R 因果	S 違い
T 世界	U 人間革命
V 環境	W 十界互具
X 2	Y 餓鬼界
Z 成仏	a 仏界
b 方便	c 三世間
d 十如是	e 仏
f 縁	g 天界
h 五陰仮和合	i 縁覚界
j 修羅界	k 十界互具
l 一念三千	m 衆生
n 天台大師	o 観心本尊抄
p 三千	

強化学習

法華經について述べた次の文章が、それぞれ何の法理に当たるかを、語群VIから選んで【】に書きなさい。それが何品なのか数字と品名も書きなさい。

a・十界ならびに森羅万象の諸法がごとごとく実相、すなわち妙法蓮華經の当体であること。

法理【】 【】 【品第【】

b・爾前經において永久に成仏できないとされた声聞・縁覚が、法華經迹門に入つて一念三千が説かれたことにより成仏の記別が与えられたこと。

法理【】 【】 【品第【】  
c・法華經を説く時には釈尊がいる時代にあつても、なお怨嫉が多い。まして滅後の時代となれば、釈尊の時代以上の怨嫉がある。

法理【】 【】 【品第【】  
d・滅後に法華經を受持し、広めることが困難であることを強調し、菩薩たちに、釈尊滅後に法華經を弘通する誓いを立てるように勧めた。

法理【】 【】 【品第【】  
e・悪世末法の時代に法華經を弘める者には三種類の強烈な迫害者が出現することが示されている。

法理【】 【】 【品第【】  
f・釈尊が滅後の悪世の弘通を託すために呼び出した無数の菩薩のこと。

法理【】 【】 【品第【】  
g・それまでの始成正覚の考え方を打ち破り、釈尊は実は五百塵点劫という、はるか久遠の昔に成仏して以来、この娑婆<sup>しやば</sup>世界に常<sup>じょうじゅう</sup>住する仏であることが明かされた。

法理【】 【】 【品第【】  
h・「二十四文字の法華經」を説いて、自身を迫害する人々をも含めてあらゆる人々を礼拝し続けた、釈尊の過去世の修行の姿。

法理【】 【】 【品第【】  
i・地涌の菩薩が滅後の弘通を誓った時、釈尊が十神力を示し、滅後の弘通を上行菩薩をはじめとする地涌の菩薩に託した。

法理【】 【】 【品第【】

「語群VI」

- |             |        |
|-------------|--------|
| A 六難九易      | B 不輕菩薩 |
| C 地涌の菩薩への付嘱 |        |
| D 久遠実成      | E 諸法実相 |
| F 三類の強敵     | G 二乗作仏 |
| H 地涌の菩薩     |        |
| I 猶多怨嫉・況滅度後 |        |

教学入門 解答

「1」法華経

① 諸法実相と久遠実成

- |         |         |
|---------|---------|
| ① 十界    | ② 妙法蓮華経 |
| ③ 諸法    | ④ 実相    |
| ⑤ 出世の本懐 | ⑥ 如我等無異 |
| ⑦ 久遠実成  | ⑧ 始成正覚  |
| ⑨ 五百塵点劫 | ⑩ 方便現涅槃 |
| ⑪ 娑婆即寂光 |         |

② 地涌の菩薩

- |          |         |
|----------|---------|
| ① 地涌の菩薩  | ② 従地涌出  |
| ③ 上行菩薩   | ④ 無辺行菩薩 |
| ⑤ 浄行菩薩   | ⑥ 安立行菩薩 |
| ⑦ 付嘱     | ⑧ 惡世末法  |
| ⑨ 日蓮大聖人  | ⑩ 上行    |
| ⑪ 法華経の行者 | ⑫ 同意    |
| ⑬ 地涌の菩薩  |         |

③ 不輕菩薩

- |        |       |
|--------|-------|
| ① 不輕菩薩 | ② 法華経 |
| ③ 輕慢   | ④ 菩薩  |
| ⑤ 作仏   | ⑥ 修行  |
| ⑦ 不輕   | ⑧ 不輕  |
| ⑨ 人の振舞 | ⑩ 人   |

「2」日蓮大聖人と法華経

① 末法の法華経の行者

「選択問題の解答」

- |          |         |
|----------|---------|
| ① 法華経の行者 | ② 法師    |
| ③ 怨嫉     | ④ 滅度    |
| ⑤ 滅後     | ⑥ 見宝塔   |
| ⑦ 六難九易   | ⑧ 難     |
| ⑨ 勸持     | ⑩ 三類の強敵 |
| ⑪ 伊豆     | ⑫ 佐渡    |
| ⑬ 三類の強敵  | ⑭ 法華経   |

「記述問題の解答」

- (2) 経文【猶多怨嫉・況滅度後】  
 (5) 右から順に、道門増上慢、僭聖増上慢、俗衆増上慢  
 (6) 名前【極楽寺良観】  
 (7) 経文【さくさくけんひんざい 数数見擯出】】

② 上行菩薩

- |  |        |
|--|--------|
| ① 付属                                       | ② 上行菩薩 |
| ③ 末法の教主                                    | ④ 太陽・月 |
| ⑤ 蓮華 <small>げゆう</small>                    | ⑥ 日蓮   |
| ⑦ 外用 <small>げゆう</small>                    | ⑧ 上行菩薩 |
| ⑨ 内証 <small>ないししょう</small>                 |        |
| ⑩ 久遠元初の自受用報身如来 <small>じじゅうほうしんによらい</small> |        |
| ⑪ 御本尊                                      | ⑫ 久遠元初 |

「3」一念三千

「選択問題の解答」

- |          |         |
|----------|---------|
| ① 一念三千   | ② 天台大師  |
| ③ 環境     | ④ 世界    |
| ⑤ 人間革命   | ⑥ 一国の宿命 |
| ⑦ 全人類の宿命 | ⑧ 観心本尊  |
| ⑨ 三千     | ⑩ 違い    |
| ⑪ 十界互具   | ⑫ 十如是   |



- ⑬ 三世間
- ⑭ 十界互具
- ⑮ 餓鬼界
- ⑯ 修羅界
- ⑰ 天界
- ⑱ 縁覚界
- ⑲ 仏界
- ⑳ 十界互具
- ㉑ 縁
- ㉒ 仏
- ㉓ 十如是
- ㉔ 方便
- ㉕ 2
- ㉖ 如是因
- ㉗ 如是縁
- ㉘ 如是果
- ㉙ 如是力
- ㉚ 如是作
- ㉛ 如是報
- ㉜ 如是本末究竟等
- ㉝ 如是相
- ㉞ 如是性
- ㉟ 如是体
- ㊱ 差異・違い
- ㊲ 五陰仮和合
- ㊳ 五陰
- ㊴ 衆生
- ㊵ 環境
- ㊶ 因果
- ㊷ 成仏

- d. 【六難九易】 法師品第 10  
見宝塔品第 11
- e. 【三類の強敵】 勸持品第 13
- f. 【地涌の菩薩】 從地涌出品第 15
- g. 【久遠実成】 如来寿量品第 16
- h. 【不輕菩薩】 常不輕菩薩品第 20
- i. 【地涌の菩薩への付嘱】 如来神力品第 21

「記述問題の解答」

(2)

- ・ 諸法すなわち、すべてのものごとく、あらゆる現象・はたらき【三千】
- ・ 私たち一人一人の瞬間瞬間の生命のこと

(3)

「一念」に「三千」の諸法が具そなわたり、「一念」が「三千」の諸法に遍あまねく広がることを説いたのが一念三千の法理です。

(9)

右から順に、「衆生世間」、「国土世間」、「五陰世間」

(12)

右から順に、「行陰」、「受陰」、「識陰」、「色陰」、「想陰」

強化学習

- a. 【諸法実相】 方便品第 2
- b. 【二乗作仏】 方便品第 2
- c. 【猶多怨嫉・況滅度後】